タ文 京 都市立 イ化 ム庁 芸術 ス 27 ト年 大学芸術資源研究 ・メデ 度 アを用いた美術作品の修復ア芸術連携促進事業 ンタ 国 $\frac{1}{2}$ 国 際美術館共催シン /保存に関するモ ポジウム ル 事業

ティスト,学芸員,研究者が考える現代美術の保存と修復

発表者

石原 友明

(アーティスト, 京都市立芸術大学美術学部教授 同芸術資源研究センター所長)

07213

植松 由佳

(国立国際美術館主任研究員)

金井 直

(信州大学人文学部准教授)

マルティ・ルイツ

(サウンド・アーティスト, バルセロナ大学美術学部研究員)

平成 27年 12月 5日(土)

13:30 ~ 17:00 (13:00 受付開始) 会場:国立国際美術館 B1 講堂

国立国際美術館

党文化庁



タ 文 京 都市立芸術大学芸術資源 イ ム庁 1ベースト ・度メ ヘディ アディ っアを アを用 研究セン れいた美術作品 連携促進事業 ター 品業 国立国際美術館共催シンポジウ 修 復/保存に関するモデル事

1 スト, 学芸員 研究者 が考える 現 代美術 0) 保 存 と修

芸術作品 市立芸 や各種資料等 術大学芸術資源研 「芸術資源」 究セン タ 0 1 ア 以 力 下 イブ化を通し 「セン ター ζ, は 将 学内 来の 新 外

たな芸術創造につなげることを目的

昨

年

4

月に発足しました。

 \vdash の修 セ 悌 復と保存に関 では を用 文化 ける 調 人術作 成 査研 27 品 研究を行 年 年 度 ヘメデ 0) ています 保 復と保存をはじ 存に 術連 関す 携促進事業「タ るモデル事業」 8 とする として 現代美 Ż

術

題を提起しています でしょう 動作 現代美: か。 新技 現代美術の保存と が術を用 しなく 分術の 作品 なることもあり 復に た作品がやがて古色を帯び お 様 いて作)修 な技 復 品の は ま 術や素材を用 す。 従 同 作 来 \dot{o} 性はどのように保たれ 絵 の保存では たり, 画 13 て作ら P 彫 部 刻 何を重 品 れ は 0 t 故 11 な います。 視 障 うる する った様 P 摩耗によ その 0) ベ きな 々 で ため な問

今回 異なる立場から、 国立国際美術館との共催で、 とは?」 か。それぞれの立場によって、 現代美術に携わる人 のシンポジウムは、 (2014年) 現代美術の保存と修復の意義と課題について考察します 々 など現代美術の保存と修復の考察に取り組んできた は 国際シンポジウム アー 保存と修復に対する考え方は異なるでし 0) 問題をどのように考えているのでしょ ティスト. 「現代美術をコレクション 学芸員, 研究者という三つ

次第

=古橋悌二

《LOVERS》の修復に係る調査の作業風景

13:30~13:40 開会挨拶 山梨 俊夫 (国立国際美術館館長)

石原 友明 「ゾンビとフランケンシュタイン 保存と修復」 $13:40 \sim 15:00$ 発表

> 「国立国際美術館におけるタイム・ベースド・メディアの保存修復ケーススタディ 高谷史郎《optical flat / fiber optic type》」 植松 由佳

「アルテ・ポーヴェラの古色と抗老化」 金井 直

「バシェの音響彫刻の修復と保存 インタラクティヴな芸術作品の動態保存への挑戦」 マルティ・ルイツ

 $15:00\sim15:20$ 休憩

パネルディスカッション $15:20\sim16:30$

16:30 ~ 16:50 質疑応答

 $16:50\sim17:00$ 閉会挨拶 石原 友明 司会:加治屋 健司(京都市立芸術大学芸術資源研究センター准教授)

平成 27年 12月 5日 (土) $13:30 \sim 17:00$

(13:00 受付開始・参加費無料)

会場:国立国際美術館 B1 講堂 (大阪府大阪市北区中之島 4-2-55)



問い合わせ先:芸術資源研究センター事務局 tel: 075-334-2231 mail: arc@kcua.ac.jp http://www.kcua.ac.jp/arc/

発表者略歷

石原 友明 (いしはら ともあき)

アーティスト、京都市立芸術大学美術学部教授、同芸術資源研究センター所長。京都市立芸術大学大学院美術研究 科修了。個展に「美術館へのパッサージュ」(栃木県立美術館,1998 年),「i [the imaginary number]」(西宮大 谷記念美術館, 2004 年), 「アウラとエクトプラズム」(MEM, 2014 年) 等。グループ展に「彫刻の遠心力」(国 立国際美術館, 1992 年), "Vanishing Points: Contemporary Japanese Art" (National Gallery of Modern Art, New Delhi, 2007), 「Trouble in Paradise 生存のエシックス」(京都国立近代美術館, 2010年)等。

植松 由佳 (うえまつ ゆか)

国立国際美術館主任研究員。丸亀市猪熊弦一郎現代美術館勤務を経て 2008 年より現職。企画展に、映像作品によ るグルーブ展「夢か、現か、幻か」、ヴォルフガング・ティルマンス、やなぎみわ、ピピロッティ・リスト、エイヤ=リー サ・アハティラ、マルレーネ・デュマス、マリーナ・アブラモヴィッチ、草間彌生、ヤン・ファーブルの個展等。 第54回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー、第13回バングラデシュ・ビエンナーレ日本参加コミッ ショナー。京都市立芸術大学非常勤講師。

金井 直 (かない ただし)

信州大学人文学部准教授。京都大学大学院文学研究科美学美術史学専攻博士後期課程研究指導認定退学。京都大学 博士(文学)。企画展に「ヴォルフガング・ライブ」(豊田市美術館, 2003年),「アルテ・ポーヴェラ」(豊田市美術館, 2005 年), "Vanishing Points: Contemporary Japanese Art" (National Gallery of Modern Art, New Delhi. 2007) 等。あいちトリエンナーレ 2016 キュレーター。

マルティ・ルイツ (Martí Ruiz)

サウンド・アーティスト,バルセロナ大学美術学部研究員。バルセロナ大学大学院でバシェの音響彫刻に関する博 士論文を書く。音楽学校でギターを学ぶとともに、古楽とヴィオラ・ダ・ガンバをサンティアゴ・ミロンに師事。 電子音響にも関心を持ち,"Katatsumuri"プロジェクトを行う。カタルーニャのサウンドスケープ録音プロジェ クト、環境芸術プロジェクト、カウベルの音を音階に調律しなおし、草を食べている牛たちの間に自動生成的に音 を生むプロセスをつくるプロジェクト等を行う。





